

多様な性のあり方の理解と課題の可視化について
多様な協働の場を創出する事業

～にじいろ協働事業～

仙台市市民協働事業提案制度 令和元年度事業報告会

東北HIVコミュニケーションズ

団体紹介

東北HIVコミュニケーションズ(THC) 1993年12月設立



<団体のミッション>

- HIV感染症/エイズによって自らの生命や生き方に影響を受けた人々が共に生きる社会を創る
- 疾病やセクシュアリティなどに刻まれたスティグマを克服し、自らの力を回復して、自己決定のもとに生を歩めるようにする

<構成員> 活動会員10名 事務局と相談員

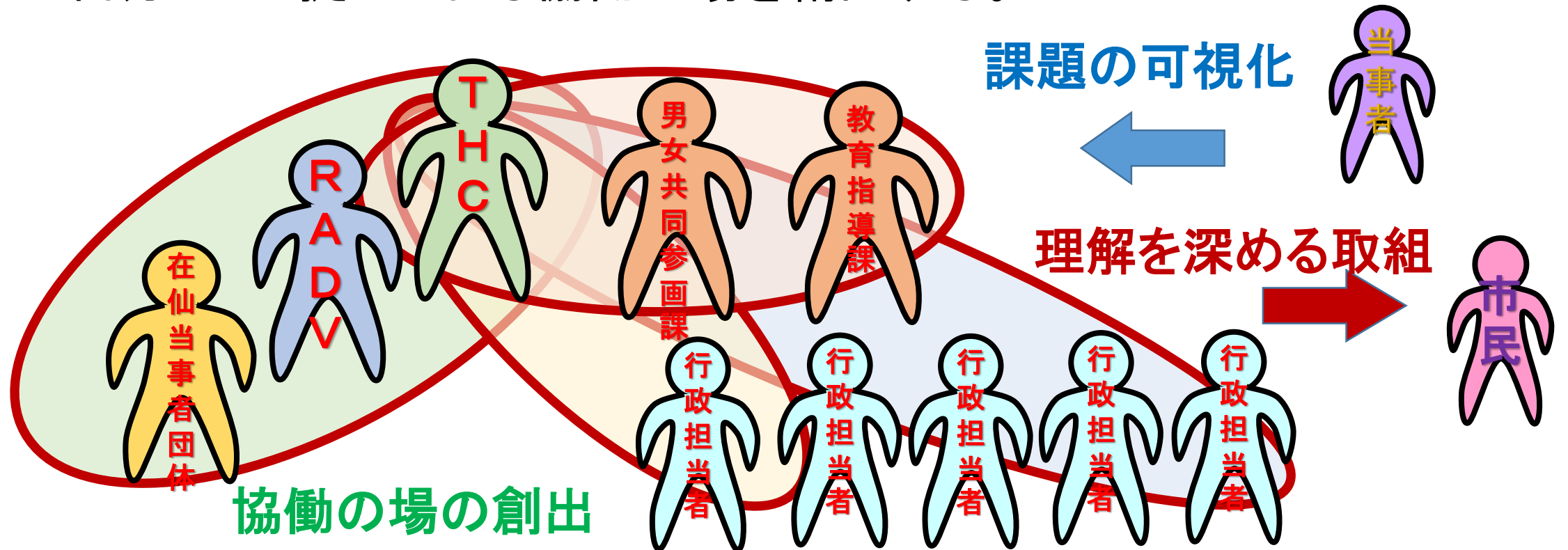
- その他、やろっこボランティア、セクシュアリティ夜間学校ボランティア

<これまでの取り組み>

- 世界エイズデーせんだい・みやぎ、厚生労働省エイズ対策研究事業
- エイズ電話相談、面談・同行支援、HIVに関する人材育成とネットワーク（共に学ぶ講座開催）
- HIV・セクシュアリティ・性的自立～支えあう学習会開催（2012～2015）
- セクシュアリティ夜間学校（2016～） 多様な性の当事者のネットワークと人材育成

事業の目的

- 多様な性のあり方について行政担当者・事業者・当事者・一般市民それぞれが理解を深め、社会的な意味を見出し、互いにこの課題を自分ごとと捉えられる協働の場を創出する。



事業内容 4つの実施事業

- ① にじいろスピーカー派遣
- ② 啓発資材「にじのたね」の発行
- ③ コミュニティスペース「にじのひろば」
- ④ せんだいレインボーDay



① にじいろスピーカー派遣



- 今年度は学校への派遣を主として行うこととした。
- 教育指導課と事前調査と告知について協議したが、学校現場の状況を鑑みて、アンケート形式ではなく申込みを受け付ける形とした。申し込み窓口は男女共同参画課とした。
- 3校4部署にスピーカーを派遣した。
- 派遣を行った学校・部署 : 吉成小学校教職員研修(8/22実施) / 消防局宮城野消防署(9/11、12実施) / 宮城広瀬高等学校3年生(10/10実施) / 宮城野高校(12/14実施) / 南部アーチル研修(12/18実施) / 生活保護担当者研修(1/8実施) / 教育局課長公所長会議(2/7実施)
- スピーカーを育成し、学校生徒向けに7名のスピーカーが従事した。

② 啓発資材「にじのたね」

- ◆ Vol.5 7月13日発行
- ◆ Vol.6 9月30日発行
- ◆ Vol.7 1月26日発行
- ◆ Vol.8 3月22日発行
- ◆ 別冊 3月30日発行

最終ページには市民協働事業提案制度の紹介、相談窓口紹介、にじのひろば告知を毎号掲載し、必要な情報が常に入手できるよう配慮した。

新型コロナウイルスの影響により、Vol.7,8については学校再開後の6月15日以降、順次配布した。



多様な性を考える人々の声から 優しいまちの姿が見えてきました

LGBTや多様な性のあり方について理解を広めようという空気は仙台でも少しずつ浸透してきているように感じますが、誰もが暮らしやすいまちにするためには市民としてどのように考えていけばいいのでしょうか。

「にじいろキャンパスSENDAI」のメンバーや「せんだいレインボーDay」のボランティアにインタビューし、それぞれの体験をうかがいました。



左からゆきさん、わか
なさん、まひろさん、
かなえさん。にじいろ
協働事業スタート
の時から親子で参
加してきました

ちゃんと知ることで“違い”を越えたい

自分達の学校の制服のあり方について見直したことをきっかけに、多様な性について正しく知ろうと思ったという高校生のわかなさんとまひろさん。にじいろ協働事業には2018年からそれぞれ親子で参加しています。

「性別に関わらず服装を自分で選択できることは大切だと思いましたが、多様な性について知らない人からは否定的な意見もたくさん出ました。」(わかなさん)

にじいろ協働事業で活動したことで「こんな困りごともあるんだ」という気付きが次々出てきて、伝えたい気持ちが強まったと言います。また、高校生と大人、ストレート^{※1}と性的マイノリティ^{※2}などの“違い”を意識することに、より疑問を感じるようになったそうです。

「『高校生とは』『性的マイノリティの人とは』という、誰もが知らず知らずのうちに持っている固定概念を改めて感じる機会にもなりました。職業や年齢、セクシュ

アリティ^{※3}など関係なく、個人を見てもらえる社会になると良いと思っています。」(まひろさん)

「帽子はピンク、ランドセルは赤など、私たちは小さなころからバイアス^{※4}をかけられて育っています。そのことでセクシュアリティに悩む人への配慮ができていなかったのではないかと感じる場面はたくさんありました。違いにとらわれず、丸ごと受け入れ合って、皆で楽しいことをしたいですね。」(わかなさん)

いつの間にか自分ごとに。皆がありのままになれる

「皆と一緒にやっているという気持ちが1年目よりも強くなっています。“自分も多様な性の当事者”というスタート時にはなかった気持ちが今はあります。」(ゆきさん)

「振り返ると、困りごとを知ったら何ができるだろうとか、尊大な態度が少なからずあったと思います。」(かなえさん)

柔軟な子ども達の姿に刺激を受けたり、自分の中にもあった生きづらさとセクシュアリティで悩む人の姿が重なったりするうちに、知らず知らず自分ごとになっていったとおふたりは話します。

「気が付いたら、自分も自分らしくいいと思えるようになっていました。」(かなえさん)

「理解するしないでなく、実行委員会の皆と一緒に楽しめた時間が大切に感じられました。」(ゆきさん)



東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろのまちづくり」を目指して活動しています

エル・パーク仙台を会場に、行われ延べ800名もの参加者で賑わいました。(2019年7月13、14日開催)

③ コミュニティスペース「にじのひろば」

毎月第4日曜日13:30~17:30

エル・パーク仙台5階創作アトリエ

5/26、6/23、7/28、8/25、9/22

10/27、12/22、1/26、2/23 9回実施

(3月は新型コロナ肺炎対策のため中止)

- 談話スペース、読書スペース、手仕事スペース
- 参加者が互いにプライバシーを守って安全な場を作り安心して交流できる場
- にじのたね、にじいろ協働事業HP、SNSにて広報



せんだい レインボーDay

◆清貴 & WE ARE ONE CHOIR

× 尚綱中高合唱部

オープニングコンサート

◆映画上映会

「空と、木の実と」「ゲイビー・ベイビー」

◆レインボートーク

東ちづるさんと4名の若者

◆展示・ブース出展企画

・ のべ880名参加 ボランティア63名

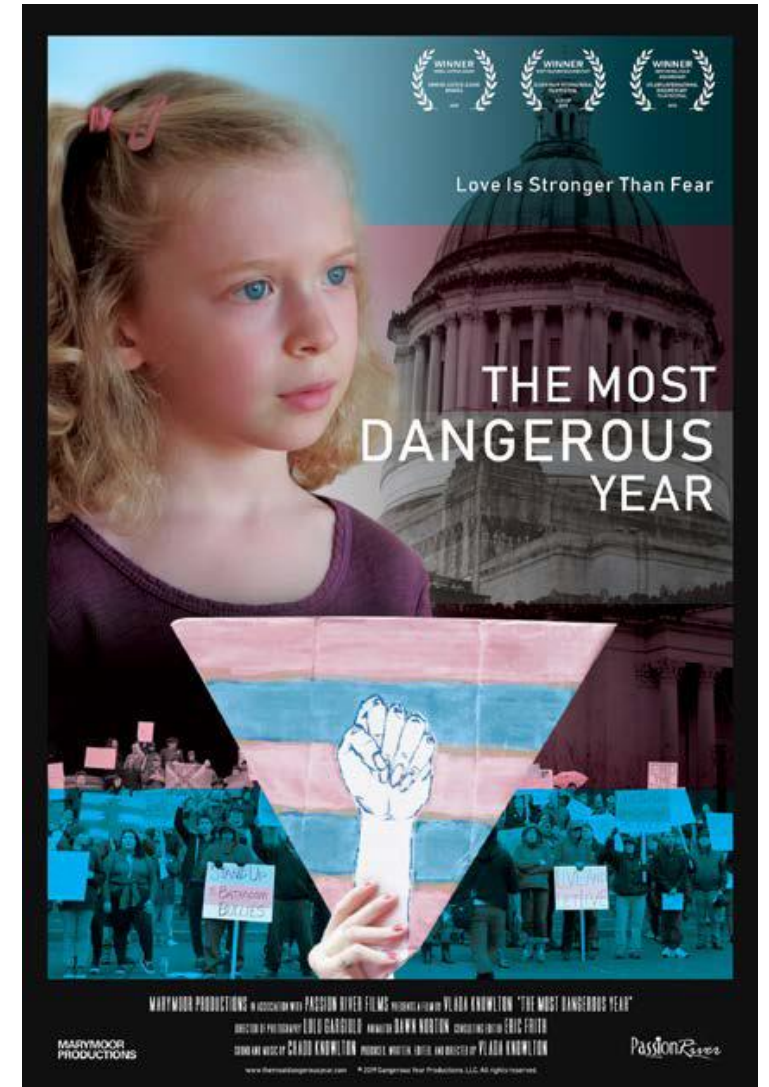


その他

- ・男女共同参画推進せんだいフォーラム2019への参加
11/24 「最も過酷な年」上映会とトークセッション

北米におけるトランスジェンダー排除の動きに対抗する
カナダ・バンクーバーの活動ドキュメント

トークセッションでは仙台でのトランスジェンダーの状況や
震災の影響について話された



事業の成果と課題

◆ 多様な性のあり方の理解促進

- スピーカー派遣は3校4部署に留まった

⇒ 行政・教育現場への浸透は時間がかかり、数年にわたる継続が必要

- イベントには、のべ880名参加し、ボランティアも63名が従事した
- 市民のさらに広範な理解には限界がある

⇒ より開かれた市民が参加しやすいイベントを開催し、また協賛を得ることで広げられるツールが必要

⇒ 仙台市としての取り組みを制度として可視化する必要

◆ 協働の場の創出

- 男女共同参画せんだいプランに沿った事業展開
- にじいろキャンパスSENDAI
 - ✓ これまでつながりのなかった市民のボランティア参加 63名
 - ✓ にじのひろばで、つながりのなかった当事者との出会い

⇒ 仙台市との協働という安心感

協働事業ならではの成果

⇒ ボランティアが団体に成長し責任を持ち事業を展開

事業終了後の取組予定

◆研修

- ・ 仙台市職員研修(8月18日)、教育センター研修
- ・ 人権教育冊子『みとめあう心』の改訂に協力

◆啓発

- ・ にじいろCANVASの活動
 - ✓ みやぎにじいろパレード / にじのたね別冊の配布、広報誌の発行
 - ✓ 学習会の開催、講師派遣

◆相談

- ・ にじのひろばの継続 ⇒ 仙台市事業を一般社団法人ブレスみやぎにより実施

◆制度の提言

- ・ 次期『男女共同参画せんだいプラン』策定への協力
- ・ パートナーシップ宣誓制度